

はじめに

信州大学環境問題研究教育懇談会会員による学際的な環境科学研究は、昭和53年度から文部省の特定研究の補助をうけて地道な活動を続けて来ている。

昭和57年度、会の組織を整えた機会に研究テーマを「信州の環境モニタリングと地域計画」として対象を自然環境からさらに一般化することと、地域計画への展開を本研究の将来構想として取り入れることを試みた。

生活と環境とのかかわり合い方について、これまでの単なる後追いの研究から、少しでも脱皮しようとの願いをこめてのテーマである。現在社会的にも環境影響の事前評価(アセスメント)について色々議論がされて来ており、地域計画に対する環境科学の役割はますます増大して来ている。

ささやかなわれわれの研究が何らかの貢献をなすうれば望外の喜びである。

本年度の報告書は会員各位の非常なご協力により掲載論文は23篇にのぼり、本懇談会の目的の一つである会員相互の研究情報の交換に大きな役割を果たすことになったが、一方予想を越えた頁数になったため、予算的な制約も大きくなって、本年度実施予定であった「信州大学環境科学研究者名簿」の印刷、発行は来年度に見送らざるを得なくなった。

研究領域、業績等を含め20項目にわたる詳細な名簿の原稿はすでに50余名の教官から戴いているので、58年度の特定研究費の補助が得られれば早速に印刷に廻わして各位のお手元にお届けする予定である。

昨年1月本懇談会主催による講演会をもったが、その講演内容は今後本会を進める上に大きな示唆を与えるもので、前報告書にその一部を掲載した。予算の都合で沖野外輝夫氏の講演要旨を同時に載せることが出来なかったため、同氏のおゆるしを得て本年度報告書にその講演要旨を掲載させて戴いた。紙面をかりてお詫びとお礼を申し上げます。

なお、今回本昭和57年度報告書を「信州大学環境科学論集」第5号として表示することにした。すなわち昭和53年度報告書を第1号として、以後54年第2号、55年第3号、56年第4号ということになる。

これまで各年度における報告書はそれぞれの年度に交付された特定研究費の報告書として、あえて号数を附さなかったものであるが、これらの報告書の内容が色々の方面で利用、引用される例も出て来ており今後もこの傾向は続くと思われるので、その場合の便宜を考えまた混乱を防ぐ意味で号数表示を試みた次第である。

信州大学環境問題研究教育懇談会

座長 釘 本 完

(昭和58年2月28日)